

コラム 39— 済南事件

蒋介石が入城後、日本軍に治安確保を約束したので日本軍は、警戒態勢を解除したところ、馮玉祥の左派の北伐軍が突然、満州日報販売店を襲撃、略奪、これをきっかけとして約 100 人の日本人が虐殺、暴行、略奪の被害を受けます。日本人死者は 10 数名におよび、その殺され方はあまりにも惨すぎたといえます。南京駐在武官の佐々木到一中佐の手記によると「手足を縛られた上で頭部をかち割られ、あるいは滅多切りにされていたり、婦人は全員が陵辱されたあと、陰部に棒が挿入されていたり、やかれていたりで『酸鼻の極み』だった」と述べています。日本軍は 5 月 7 日、暴行行為に関与した高級武官などの処刑を含む条件を、12 時間の期限付きで提示しました。

1928(昭和 3)年 5 月 8 日、済南事件発生に鑑み、日本政府は、第三次山東出兵を決定、第 3 師団 1 万 5 千人に、動員を下します。革命軍は、済南事件に対する日本側の回答を拒否したため、日本軍は済南城を攻撃し、山東を制圧します。このときの中国側の死者は、3,600 人と中国側が発表しています。

非は中国側にあるにもかかわらず、済南事件は、北伐を阻止しようとする日本軍の計画的挑発と中国側は、主張し、5 月 3 日を国辱記念日としています。